

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立城北中学校

1 自己評価書

教育目標		心身ともにたくましい生徒の育成			
基本方針		<ul style="list-style-type: none"> 自己を律して、礼儀正しい生徒 優しさがあがり、自他を思いやる生徒 感性豊かで、明るく元気に活動する生徒 			
本年度重点目標		<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の定着と基本的な生活習慣の確立 思いやりの心と助け合う態度の育成 生徒会活動・地域貢献活動の充実 			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	A
			・具体的な対策の実施	A	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査、標準学力調査とともに、全国平均を下回っていた。 ○定期テスト前に、学習クラスマッチを行い、生徒の学習意欲の向上に努めることができた。 ○読書活動の充実に向けて、文化祭でピブリオバトルを行うなど、学校行事を効果的に活用することができた。 ○職場体験学習(3年生)や福祉学習(2年生)、地域学習(1年生)を通して、地域について学習する機会を持ち、地域に対する誇りや持続可能な社会を目指す態度の育成に努めることができた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対話的活動後の考察や振り返りを行う。前時の振り返り(小テスト)の習慣化や単元を通しての課題を生徒に意識させることで、生徒の学習習慣や学習意欲の高揚を図る。 ○自主学習ノートを活用して、家庭学習の充実につなげる。 ○図書館だよりの発行回数を増やして、保護者にも読書活動についての取組を伝えるようにする。 ○今後も全学年で、年間を通して計画的に地域学習や持続可能な開発のための教育を行っていく。 				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	C	
			・保護者アンケート	B	
	③ 関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	C	
④ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B	
		・児童生徒アンケート	C		
		・保護者アンケート	B		

実	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B
				・児童アンケート	C	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する 取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B		
			・児童アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○前期同様、おおむね良好な身だしなみで生活ができていた。 ○教員との良好な関係により、生徒指導上の問題に早期に対応できたケースがあった。 ○学校行事等を通して、自己肯定感や自己有用感が微増した。 ○30日を超える欠席生徒が増えている。 ○登下校時のマナーについて、地域から連絡をいただくことがあった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○不登校生徒に対して、学年部や生徒指導主事、不登校等対策教員とも連携して登校できるよう支援をしていく。 ○朝の会や終わりの会、全校が集まる機会や登下校指導時に、登下校のマナーについて指導をする。 ○生徒会組織が新しくなる機会に、多くの生徒に活躍の場や機会を設定する。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。) 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
・教師アンケート			B		
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学期末事務処理に合わせて、柔軟に校時の変更を行い、時間外勤務の解消に努めた。 ○前期に引き続き、相談しやすい、支えあっていると感じている教員が多かった。 ○教員以外のスタッフと協力しながら、学校園の整備や校内掲示などの環境整備を行うことができた。 ○学校行事において、特定の教職員へ負担が大きくなってしまった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学校行事の計画立案時に、負担が大きくなる仕事に、複数の教員を配置する。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会に教員が参加し、学校運営協議会の役割について理解を深めることができた。 ○生徒指導等、保護者の相談にすぐに対応し、家庭との情報共有も丁寧に行った。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○宇和島市教育委員会とも相談しながら、保護者の思いに寄り添う対応を行っていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満